感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される
新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の新規変異株について （第 10 報）

国立感染症研究所
2021 年 7 月 6 日 18:00 時点

要約

- WHO は C.37 系統の変異株（ラムダ株）（以下、C.37 系統（ラムダ株）、と記載。他の変異株の表記も同様に略）を注目すべき変異株（VOIs; Variant of Interest）に位置づけた。検疫・国内では報告がないため、現時点では VOCs/VOIs への位置付けは行わず、ゲノムサーベイランスで発生動向を注視していく。
- 国内の新型コロナウイルスは、懸念される変異株（VOCs; Variant of Concern）の一つである B.1.1.7 系統の変異株（アルファ株）にほぼ置き換わったが、B.1.617.2 系統の変異株（デルタ株）が国内でも増加しつつある。
- B.1.617.2 系統から派生して AY.1、AY.2、AY.3 系統が新たに分類され、国内でも AY.1 系統が確認されている。当面は VOCs であるデルタ株の一部として発生動向を注視する。

懸念される変異株（VOCs）と注目すべき変異株（VOIs）について

WHO の VOCs/VOIs 分類に新たに C.37 系統の変異株（ラムダ株）が加わった（表１）。

【C.37 系統の変異株（ラムダ株）】

- 2021 年 6 月 14 日、C.37 系統の変異株が WHO によって VOI に位置付けられ「ラムダ」と呼ばれることとされた(1)。
- C.37 系統（ラムダ株）は、ペルーで 2020 年 8 月に初めて報告された。GISAID(www.gis-iaid.org/hcov19-variants)に 2021 年 6 月 15 日時点で 1,730 以上のウイルス遺伝子配列が 29 カ国から登録されている（7 月 4 日時点での登録数：2,213)。
- Outbreak.info によれば（2)、南米で、過去 60 日間の検出割合の増加が見られており、チリ(30%)、ペルー(50%)、エクアドル(11%)である(2021 年 7 月 4 日時点)。
- C.37 系統（ラムダ株）の S タンパクの特徴的な変異としては、G75V、T76I、del247/253、L452Q, F490S, D614G, T859N がある。感染・伝播性の増加と中和抗体能への抵抗性と関連している可能性があるが、実験的データは限られている(3)。
- 英国 PHE は調査中の変異株（VUI: Variant Under Investigation）(4)、欧州 CDC は監視下の変異株(variants under monitoring)(5)に位置付けている。
- 国内では報告がないため、現時点では VOCs/VOIs への位置付けは行わず、ゲノムサーベイランスで発生動向を注視していく。

国内での VOCs/VOIs の検出状況については、感染症発生動向調査感染週報（IDWR; https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html）にて報告しているので参考にされたい。